

ポスト 2015 年開発アジェンダ：高い志の下に結束し行動でひとつとなる

演説

クリスティーヌ・ラガルド
国際通貨基金 専務理事

ポスト 2015 年開発アジェンダ採択のための国連サミット

国際連合

アメリカ・ニューヨーク

2015 年 9 月 25 日

はじめに

事務総長、殿下、妃殿下、閣下はじめ本日よりご列席の皆様。

「団結は力なり」という古いことわざがあります。

2カ月前、国際社会はアディスアベバで試されました。我々は持続可能な開発が全ての人にとり現実となるよう、そのための資金を確保することを誓いました。

本日、持続可能な開発目標の採択のために集った我々は、これから新たな正念場を迎えようとしています。我々皆の成功のためには、我々が、国そして全体という二つのレベルで断固たる措置を採りこれを実行することができるかにかかっています。

1. 国レベル

各国は、経済的、社会的、そして環境面という三つのレベルで行動しなければなりません。

まず、マクロ経済の安定性です。これは持続可能な経済には不可欠ですが、これだけでは十分ではありません。国により優先事項は異なるものの、構造改革が必要であり、経済の多角化への努力が必要です。同様に、歳入の確保と、投資も含めた効率的で効果的な公共支出も重要でしょう。

第2の優先事項は包摂性です。より包摂的な成長イコールより力強い成長です。ですから、我々は人々がその潜在能力を完全に発揮できるよう彼らに力を与えなければなりません。女子の教育の改善や女性の雇用や融資へのアクセスの障壁の撤廃は、成長を促すのみならず、所得格差と貧困問題への取り組みでも有効でしょう。貧困と排除は性差別だということを心に留めておいていただきたいと思います。

第3の優先課題は環境です。各国は、その天然資源を効果的かつ効率的に管理するという重要な役割を果たさなければなりません。同時に、経済活動が環境に及ぼす有害な影響を制限するには、的を絞った介入が不可欠になるかもしれませんし不可欠でしょう。

要するに、各国は開発を推進するにあたり可能な限りあらゆる措置を講じなければならないのです。しかし、孤立しては進展を継続させることはできません。国際社会も加わる必要があります。つまり、我々には協調行動が必要です。これはなぜでしょうか。

2. 共同責任

今日の相互に関連した世界では、良くも悪くも、原因とその結果が、即座にそして間断なく、壁が構築されていようが関係なくあらゆるレベルに国境を越え伝播しそしてこれが跳ね返ってきます。

- マクロ経済の安定性—ある国の経済ショックが他国に影響を及ぼします。
- 包摂性—社会変革が変化の風を導きます。
- 環境—地球温暖化の問題では、他国が摘み取ったものを皆が摘み取ります。

188の国が加盟し世界的に経済面での協力と安定化を70年間にわたり推進してきたIMFは、連携の必要性、そしてそのパワーを十二分に理解しています。

実際、IMFは行動を約束しているのみならず、これを実行しています。政策助言、研究・調査、そして能力構築において我々は、これまで含まれていなかった社会的・環境的側面をも対象とするようになってきました。今後もこれは続けていきます。また、我々は途上国支援を幾つかの方法で拡大しています。

- 第一に、最も貧しい国々は、我々の金利がゼロに設定されている制度からこれまでより50%以上多く資金を借りることができます。
- 第二に、我々は、開発のための支出を確保すべく歳入の拡大に取り組む加盟国を支援するために、技術支援を強化しています。この世界銀行と協力して進めている取り組みに加え、
- 我々は脆弱国や紛争の影響を受けた国々への支援を強化しています。ラピッド・クレジット・ファシリティの金利ゼロ政策を、当初予定を延長して継続していることは重要です。

IMFは、SDGsの達成で不可欠な国際協力の精神の下、加盟国や国際パートナーと協働してきました。そしてこれは現在も続き、これからも変わりありません。

最後に

ご列席の皆様、偉大な第2代国連事務総長ダグ・ハマーショルド氏はかつて述べました。

「我々には、運命の枠組みを自ら決めることは許されていない。しかし、何をその枠の中に入れるかは、我々自身が決めることだ」

同じく、SDGs のターゲットの年である 2030 年もやがてやってきます。しかし、それがどのような年となるのかは我々にかかっているのです。

ご清聴ありがとうございました。